

黒潮

学生インターン導入検討

川根本町は町外在住の学生を対象に短期・長期にわたって町内企業や1

あり、2021年3月現在で高齢化率(高齢人口)は約49%。県内でも高い数値を誇り、少子高齢化が進んでいる。

次産業の仕事が体験できるインターンシップの体制導入を検討している。若者が町に一定期間滞在し、仕事に携わることで町の魅力を体感してもらい、いずれは移住定住に結びつけたい考えだ。人口減少、高齢化が顕著に進む町でこれからの担う若い人材の確保に期待したい。

きっかけは静岡文化芸術大(浜松市)の学生が「大学生観光まちづくりコンテスト」(同運営協議会主催)に応募した作品。川根本町の魅力や課題に着目し「田舎にある仕事を知り、移住につなげる」を目的としたインターンシップの体制づくりを提案した。学生は「大手求人サイトに情報がないため、仕事がないように見え、移住を遠ざけてしま

若年層の人材確保に

つていてのではないかと提案理由を口にした。

町は学生のアイデアを軸に体制づくりを進めていく方針だ。企業、事業者への協力呼びかけ、インターンシップの概要や体験プランを紹介するホームページの作成などを検討している。町企画課の担当者は「農業や林業といった1次産業、役場や一般企業など職種を多く用意し、学生の希望に対応できるようにしていきたい」と意気込む。滞在中の住居については地名地区に16戸ある若者定住促進住宅の一部を活用

し、期間中は無償で貸し出す方法も考えているという。

アイデアを提案した学生3人は自らモデルケースとなり、春以降に町を訪れ、短期間の職業体験に励む。川根本町に住みたいと強く抱く学生が自らの身で体験し、貢献しようとする姿は町としても心強いはず。コロナ禍で田舎暮らしのニーズが高まるなど追い風の今、学生3人のアイデアを無駄にせず、率直な意見を参考に着実な体制構築を進めていってほしい。

(島田支局・池田悠太郎)